

英語学習における IT ツールの利用について：発音面を中心に
On the Use of IT Devices in Learning English: With the Focus on Pronunciation

林 弘美

Hiromi Hayashi

英語・英語学研究室

E-Mail:hhayashi@my-pharm.ac.jp

林 (2010)では、英語学習における IT ツールの利用について本学の学生の状況を報告した。その内容を踏まえ、本稿では特に発音面を中心とした授業での取り組みについて述べる。¹⁾

1. 明治薬科大における英語教育でのITの利用

明治薬科大学においては、必修科目で使用するテキスト(『薬学英语1』『薬学英语2』)の音声ファイルを学内LANで提供し、必修科目では適宜 CALL 教室を利用、選択科目では「CALL 英語」という毎回 CALL 教室でリスニング中心の演習を行う科目を設定するなどして、授業の活性化・効率化にITを利用している。また、TOEIC 対策等の英語ソフトを CALL 教室に用意し、授業以外にも自発的学習を行うよう奨励している。

2. 学生の利用状況

林 (2010)では、筆者が担当するクラスの学生(必修科目、4クラス、158 人)に対して実施したアンケート結果を報告した。以下、辞書の利用と英語学習に利用するメディアに関する部分を簡単に示す。

¹⁾ 本稿は、2011年2月15日に明治薬科大学で行なわれた“第13回マルチメディアを利用した教育研究発表会(MBI発表会)”における口頭発表の内容に加筆・修正を加えたものである。発表に際しコメントを下された皆様に感謝を申し上げる。なお、“ITコンソーシアム2010”におけるポスター発表(林(2010)参照)およびその報告書の内容と一部重複する部分がある。

2.1 辞書の利用について

辞書に関しては、電子辞書利用者が多数(158人中145人)であった。全体的な利用状況は、(1)の通りである。

(1) 一番利用している辞書

- a. 紙の辞書 5人
- b. 電子辞書 145人
- c. CD-ROM 型辞書 0人
- d. インターネット上の辞書 4人
- e. 携帯電話の辞書 2人
- f. その他(なし) 2)

辞書の利用方法として、意味に加えて品詞、使用例・例文、語法・解説を確認している学生が多く、また、英作文の時だけは紙の辞書を使うなど、辞書をうまく使い分けている学生がいることもわかった。具体的には、(2)のような結果であった。

(2) 英単語を調べる際に、多くの場合確認する情報

- a. 意味 156人
- b. 発音 41人
- c. 品詞 85人
- d. 使用例・例文 83人
- e. 語法・解説 44人
- f. その他(類語 1人、語源 1人)

ここで、発音を確認する学生が158人中41人と、約4分の1であることに注目しておきたい。(授業で発音記号の読み方を練習した後は、発音を確認する気持ちになった学生が増加したことを後述する。)

2.2 英語学習に利用しているもの

英語学習に利用しているメディアとしては、(3)の結果を得た。

(3) 英語学習に利用しているもの

- a. PC による英文サイトの視聴 9人
- b. PC によるメールマガジンの受信 0人
- c. 携帯電話による英文サイトの視聴 3人
- d. 携帯電話によるメールマガジンの受信 0人
- e. 携帯電話による英語の視聴(音楽以外) 1人
- f. 携帯電話による英語の視聴(音楽) 8人
- g. 携帯型音楽プレイヤー(iPod/ウォークマンなど)による英語の視聴(音楽以外) 10人
- h. 携帯型音楽プレイヤー(iPod/ウォークマンなど)による英語の視聴(音楽) 62人
- i. MD/CD/DVD プレイヤーによる英語の視聴(音楽以外) 20人
- j. MD/CD/DVD プレイヤーによる英語の視聴(音楽) 27人
- k. 携帯ゲーム機(DS/PSPなど)による英語学習ソフト 11人
- l. その他(単語帳 1人、英語の本 1人、TOEIC などの参考書 1人)

学生の間で携帯電話とメールの利用が盛んである割には、(3d)でメールマガジンの利用者が 0 人であることは残念である。例えば、ベルリッツ・ジャパンが発行している“WordMaster@Work”というメールマガジンでは、ビジネス関係の英語表現の意味が英英辞典方式で紹介され、続いて使用例がいくつか挙げられている。HP ではテーマ別に分類され、日本語による説明もついている。メールマガジン単独でも勉強になるであろうし、HP も確認すれば一層の学習効果が期待できると思われる。

(3g)は、ポッドキャスト番組などの視聴を含む回答であると考えられる。ポッドキャストについては、林(2006、2007、2008)でも取り上げた。最近のポッドキャスト番組の例として、TOEIC 公式 HP にある音声ポッドキャスト“English Upgrader Second Series”などがある。“English Upgrader Second Series”の場合、HP にスクリプトが掲載されており、聞き取った後に

確認することができる。

3. 英単語の発音

英語の発音として、ここでは単語レベルのものを取り上げる。

3.1 発音記号について

辞書では、見出し語に対して、その発音が発音記号で記載されている。発音記号は、学校教育において教えられないことも多く、読み方を知らない大学生も多い。発音記号に馴染みのない学生に対しても、例えば calcium と cat では下線部の a の発音は同じか、といった聞き方をすることにより、発音関係の出題がなされることがある。ただし、筆者は、発音記号は、宮川(2008)等によっても学習可能であるし、授業において少し練習すればある程度の読み方は身につくものであると考えている。

3.2 学生の現状

3.2.1 テキスト

明治薬科大学で 1 年生の必修科目としての英語の授業(「総合英語 A/B」)で使用しているテキスト『薬学英语 1』(CD付き)では、発音関係の練習問題が数多く取り入れられている。例えば、ある練習問題(79 頁 “Say It in English”)は(4)のようになっており、発音を付属 CD で確認する形式となっている。

(4) 1. Ar

2. Ca

3. Hg

4. Na

5. S

練習問題の扱いは教員に任されており、テキストには発音記号自体は掲載されていない。筆者の場合は、CD 音声を確認した後につづり・意味と共に発音記号も示した。(5)のようになる。

(5) 1. Ar → argon /áɜːgən | áɜːgɒn/ アルゴン

2. Ca → calcium /kælsiəm/ カルシウム

3. Hg → mercury /mɜːkjuri | mɜː-/ 水銀

4. Na → sodium /sóʊdiəm/ ナトリウム

3. 2. 2 試験

試験においては、1年生と2年生共に、学習した中からある一つの章を指定し、その章に出てくる単語を対象として、発音記号で示されたものを通常のつづりで書かせる形式の出題をしている。例えば、(6)のような形式である。((6)では、1年生対象のものと2年生対象のものを取り混ぜて示した。)

(6) 「次の発音記号で書かれた単語を通常の英語のつづりで書きなさい。」

- a. /æktəvේjən/
- b. /rɪsír:v/
- c. /kəmpít/
- d. /dʒén(ə)rəli/
- e. /répləkèit/
- f. /væksín/
- g. /mètəbólik/

学期の初めに、定期試験においてこのような形式の出題をすることを予告し、授業中にもプリント等の補足により簡単な練習を行ったため、学生の多くは、正しく解答できていた。ただし、正しく書けなかった学生もあり、その間違い方にはいくつかのパターンが見受けられた。間違いの多くは、発音記号の読み違いによるものと考えられる((6a) ○activation/×acteveigen、等)。加えて、rとl、vとbといった、日本人にとって聞き取る上で区別しにくいとされる子音について、つづりの上でも混同されているものが少なからず見られた((6d) ○generally/×genelaly、(6e) ○replicate/×repricate、(6f) ○vaccine/×baccine、(6g) ○metabolic/×metaboric、等)。また、もうひとつのパターンとして、他の英単語と混同するという間違いもあった((6b) ○receive/×reserve、(6c) ○compete/×complete、等)。いずれの場合も、発音記号の読み方に慣れること、そして、正しく発音するように努めることで、日本語の音声体系とは異なる言語としての英語の音声面の習得に役立つと思われる。

3. 2. 3 最終授業時のアンケート結果

学生の感想として、筆者が担当する1年生と2年生計4つのクラスを対象としたアンケート結果を紹介したい。

各クラスの最終授業において、授業に対する無記名アンケートを行った(2010年12月、2011年1月実施)。その中の質問項目として「発音記号を確認しようという気持ちになりましたか?」というものを設けた(回答数: 155人)。その結果、肯定的な意見を書いた学生は100人であり、回答総数の約3分の2であった。このアンケートに回答した学生は、先に本稿2.1で紹介したアンケート(2010年10月実施)と同一である。その時点では、発音記号を辞書で確認すると回答した学生は約4分の1であったので、数ヶ月後には、発音記号を確認しようという気持ちを抱いた学生は明らかに増加したことになる。

今後、学生が単語を辞書で確認する際、各単語が担う多くの情報の中で意味と同時に発音も確認する習慣を身につけておくことで、特に専門用語の場合などに、効率的に語彙を増やしていくことにつながると思われる。もちろん、既にそういった習慣を十分に身につけている学生もいるが、大学生の時点であっても授業をきっかけとして発音記号の確認ができるようになることは将来にわたって有益であると考えられる。

4. まとめ: 今後の指導に向けて

辞書の活用法としては、電子辞書・紙の辞書にかかわらず、今後とも発音の確認も行うように指導していきたい。特に電子辞書の場合には、単語の発音を音声で確認することができる機種も多く、発音記号を見ながら音声を聞けば単語の聞き分けにもつながり有効に学習を進められるはずである。単語を引く際に、見出し語のすぐ後に表示されている発音記号、そしてその音声を確認することを奨励したい。また、電子辞書の特性として複数の辞書の切り替えが容易であることから、英和辞典や和英辞典で調べた単語の意味を英英辞典でも確認することも、是非勧めたい活用方法である。

全般的に、PCや携帯型音楽プレイヤーなど既に学生が利用しているものであっても、英語学習への活用はまだまだ進んでいないようである。しかし、利用方法や役に立つコンテンツなどを紹介していくことにより活用が進むことが期待される。ポッドキャストなどの利用もなかなか浸透しないように思われるが、今後も引き続き勧めたい。

従来から英語学習に有用とされているテレビ・ラジオや紙媒体のものなどに加え、IT技術により発達したものを併用することで、より効果的に、かつ、学生の自発性を促しながら、学習を進められるよう指導していきたいと考える。

参考文献

- 林 弘美 (2006) 「学生の自発的英語学習支援のために」『明治薬科大学研究紀要』 35、48－52.
- 林 弘美 (2007) 「英語の授業および自発的学習のための英文サイト」『明治薬科大学研究紀要』 36、70－73.
- 林 弘美 (2008) 「英語のリスニング学習について——ポッドキャストとオーディオブックの利用」『明治薬科大学研究紀要』 37、81－87.
- 林 弘美 (2010) 「英語学習におけるITツールの利用について」IT コンソーシアム 2010(於:明治薬科大学)におけるポスター発表. 2010年10月16日.
- 宮川幸久 (2008) 『Cat の発音教えます。——英語の正しい発音が基礎からよくわかる』 研究社.

メールマガジンの例

ベルリッツ・ジャパン: WordMaster@Work
<http://www.berlitz.co.jp/wm/>

ポッドキャスト番組の例

TOEIC 公式 HP : English Upgrader Second Series
(音声ポッドキャスト)
<http://www.toeic.or.jp/square/basic/podcast/>